

教師ノート

日付	2012年 3月25日
単元	サムエル記・1
テーマ	神を信頼して、困難にチャレンジする
タイトル	ダビデ対ゴリヤテ
テキスト	Iサムエル17章
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) Iサムエル17:50 or イザヤ12:2
AG 日曜学校教案参照箇所	(リンクできます)

□導入

今日は、世界中のこどもたちに大人気のお話です。

□ポイント1 ゴリヤテはイスラエル軍に挑戦してきました(1-11節)

ダビデがサウルの家来になった頃、イスラエルとペリシテに戦いが起こりました(ダビデはサムエルから油注ぎを受けましたが、まだサウルが王で、ダビデはその家来でした)。サウルとイスラエルの兵はペリシテ人を迎え撃つため、戦いの準備をしていました。

ペリシテ人は向こう側の山の上に、イスラエル人はこちら側の山の上に、谷をはさんで向き合いました。すると、ペリシテ兵の内から、ひとりの代表戦士が出て来ました。ゴリヤテという、3メートルもある巨人でした。しかも、青銅のかぶと、体には50kg以上のよろい、足には青銅のすね当てという完全武装です。また、肩には青銅の投げ槍を背負っていて、その穂先は、鉄で6kg以上ありました。

ゴリヤテは、イスラエル人の陣に向かって叫びました。「ひとりを選んで、俺の所によこせ。俺と勝負して勝ったら、俺たちはお前らの奴隷になってやる。でも俺が勝てば、お前らが俺たちの奴隷なるのだ。」そういわれても、イスラエル軍の代表になる者はいませんでした。みんな怖がっているのです。民のだれよりも、肩から上だけ背が高く、かつては勇敢だったサウルも、もはや臆病になっていたのでしょう。

何日たっても、だれもゴリヤテと勝負しようとしません。サウルとイスラエル兵は、それを聞いて、元気をなくし、恐れて気が沈むばかりでした。

□ポイント2 ダビデがゴリヤテの挑戦を受けました(12-40節)

その頃、父エッサイは、ダビデに頼んで言いました。「ペリシテとの戦いに言っているお兄さんたちに食べ物を持って、様子を見てきておくれ。」イスラエル軍の中にはダビデのお兄さんたちも3人入っていたのです。ダビデ自身は、サウルの家来でしたが、お父さんのところで羊飼いの仕事もしていたので、宮殿へ行ったり、帰ったりしていたのです。

ダビデが戦地に着いて、お兄さんたちと話しているとき、またゴリヤテが「だれか俺と戦うヤツは出て来い!」と言いました。ダビデは、恐れているイスラエル兵たちに怒って言いました。「生ける神さまがついているイスラエルをバカにするとは、あのペリシテ人はいったい何者ですか!」ダビデにとっては、イスラエルをバカにすることは、神さまをバカにすることだったのです。それを聞いて兄エリアブはダビデを叱りました。

サウルはダビデを呼び寄せました。ダビデは「私が行って、あのペリシテ人と戦いましょう。」と言いました。しかしサウルは「無理だ。お前はまだ若すぎる。」と答えました。 ※34～37節を読んでください。ダビデは、いつも羊を守るために、ライオンやクマなどと戦っていました。そんな危険な目にあっても、いつも必ず神さまがダビデを守り、勝利させてくださいました。普段の生活の中で、いつもそういう体験をし

ていたのので、ダビデは神さまを100%信頼していたのです。だから、ゴリヤテと戦っても、神さまが必ず勝たせてくださると、確信することができたのです。

それを聞いて、サウルはダビデに自分の立派なよろいかぶとを着させ、剣を与えました。しかし、ダビデは「こんなものを着けては、歩くこともできません。慣れていないからです」と言ってそれを脱いでしまいました。それから自分の杖を手に取り、川から5つのなめらかな石を選んできて、それを羊飼いの使う投石袋に入れました。そして、石投げを手にして、勇敢にゴリヤテの前に出て行きました。

④ **投石袋**: 羊飼いや戦士は石投げを携えていたが、投げる石は肩から下げた袋に入れて持ち運んだ。

石投げ: 革などで作られ、中央は少し幅が広くなり、くぼみがある。このくぼみに石を入れ両端を片手で持ち、頭上で振り回して一端を放し、石を飛ばす。一般に羊飼いが家畜を野獣から守るために用いた。(いのちのことば社「新聖書辞典」より)

□ポイント3 ダビデはゴリヤテに勝ちました(41-58節)

ゴリヤテは、ダビデが若くて、ハンサムな少年だったので、バカにしました。しかしダビデは少しも恐れず、堂々と言いました。※45~47節を読んでください。ダビデは、神さまがともにいて戦ってくださると信頼していました。そして神さまは必ず勝利させてくださると確信していたのです。

いよいよゴリヤテが、ものすごい迫力で近づいてきます。ダビデもすばやく戦場を走って行き、勇敢に立ち向かっていきます。ダビデは袋の中に手を差し入れ、さっき拾った川の石を一つ、取り出しました。そしてそれをサッと石投げ器に入れました。頭の上でそれをブルンブルンと振り回しながら、狙いを定めます。そして、それをビュン！と放ったとき、石は見事にゴリヤテの額に命中しました。石は額に食い込み、彼はドッシーンとうつぶせに倒れました。

こうしてダビデは、石投げと一つの石で、巨人ゴリヤテに勝ちました。よろいも着けず、剣ももたない羊飼いのダビデが、完全武装の3メートルの戦士をやっつけたのです。ペリシテ人たちは、ゴリヤテが死んだのを見て逃げ出しました。サウルやイスラエルの兵たちも、ダビデの強さに驚きました。

□結論 ダビデは神さまを信頼し、ゴリヤテに勝利しました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

みなさんは、イスラエル人のように、困難を前にして意気消沈していませんか？(勉強・スポーツ・習い事・遊びなど) ダビデは、なぜ恐れずゴリヤテに立ち向かえたのでしょうか？神さまが必ず助け、勝利させてくださると信頼しきることができたからです。ダビデは、普段から、生活の中で神さまに信頼し、守っていただく体験を積み重ねていました。神さまはいきなり大きな敵と戦わせるようなことはなさいません。あなたも、日常の小さなことから、神さまに頼っていきましょう。そうすれば、いつも神さまの守りを体験できます。そのような体験の積み重ねから、大きなことにも恐れずにチャレンジできる信仰を養いましょう。あなたはダビデのように、神さまに選ばれ、油を注がれた者です。神さまがともにいてくださいますから、何でも恐れずチャレンジできるようになりましょう。

ダビデは、小さな石で戦いましたが、私たちの戦いの武器は、祈りとみことばです(エペソ6:17、18)。ディボーションや暗唱聖句でみことばを蓄えよう！いつも聖霊に満たされて祈りを積み重ねよう！ダビデは日ごろからまじめに働き、石投げの訓練をし、時間を無駄に使っていませんでした。また羊飼いをしながら、賛美や祈りを忘れませんでした(詩篇)。そんなダビデだからこそ、神さまは彼が懸命に投げた1つの石をゴリヤテに命中させてくださいました。あなたも、みことばの勇士として、いつも祈りとみことばに専念し、準備しておきましょう。